

会 議 報 告 書	
会 議 名	令和5年度 第3回草津市社会教育委員会議
日 時	自 10時00分 令和5年12月22日(金) 至 11時30分
場 所	草津市役所4階 行政委員会室
出 席 者	委員：山口委員長、長橋副委員長、橋本委員、北川委員、内田委員、 奥野委員、山元委員、澤村委員、矢野委員、出呂町委員、 佐藤委員、福田委員 事務局：藤田教育長、増田部長、岸本総括副部長 生涯学習課 古川課長、廣政課長補佐、河合主事 傍 聴 人：0名
会議関係書類	<input checked="" type="checkbox"/> 有（別添のとおり） <input type="checkbox"/> 無

1. 【教育長挨拶】

2. 議事

1) 前回の会議の振り返りについて

資料1に基づき、事務局説明

【委員長】

委員の皆様からは、ただいまの内容について修正追加等、ご意見等ありましたらお願いいたします。お気づきの点や、解釈の違いなどがあれば、お教えてください。

それでは、議事の2-2です。令和5年度「読書ボランティア人材養成講座」実施結果についての説明をお願いいたします。

【事務局】

資料2をご覧ください。

「読書ボランティア人材養成講座」改良の変遷と効果と題しました資料です。

最も左部分「内容」から「期待する効果」までは、前回の会議でお示しいたしました資料内容と同様です。今回、講座修了後の効果に関する右側の太線囲み部分を追加しております。

上から順次説明いたします。

まずは、日時でございますが、平日午前、平日夜間、休日午前の3コース用意しましたところ、受講者が24名から42名に増加。課題であった若者世代は、20代が1名から2名に増加、30代が0名から6名に増加、若者の定義からは外れますが、40代が5名から16名に増加いたしました。

受講生の確保、人材の発掘という点において、非常に効果的であったと考えております。

次に会場でございますが、市立図書館から南草津駅前の市民交流プラザに変更して開催いたしました。公共交通機関を利用されている方にも利用しやすい施設であることから、受講生の増に一定寄与したものと考えております。

次に定員でございますが、各コース10名程度と設定しておりましたところ、平日夜間と休日午前はそれぞれ申込者が10名ずつでありました。

平日午前は、想定を超える24名の申込みをいただきましたが、会場に余裕がありましたので、抽選は行うことなく、全員受け入れることが可能でした。会場の大きさに応じた定員設定は必要であります。状況が許せば大きめの会場を用意することで、多くの受講者を受け入れることが可能となります。

次に講座の回数ですが、令和4年度は全3回の講座回数でしたが、各コース同内容で2回にしたことでハードルが下がり、受講につながった方もおられました。極力、内容の質を保ちつつ、負担にならない回数とすることで受講者増に繋がることになりました。

次に広報、チラシについてですが、SNSが普及している現代におきましても、受講者の半数が「広報くさつ」で講座の情報を得ておりました。依然として「広報くさつ」が情報伝達媒体として主力であることが分かりましたが、一方、市HP、市の情報配信メール、X（ツイッター）により情報収集されている方も一定数おられます。

今後は、これらの媒体により情報を得る方が増加することが予想されますので、時代に応じた様々な周知方法を活用することが必要であると思われれます。

チラシにつきましては、6名の方がチラシで講座を知ったということが分かり、媒体として効果的と考えられます。

申込方法ですが、申込者のほとんどがQRコードを用いた電子申請を利用されており、現時点だけでなく、今後とも主流であると考えられます。受講者の獲得に非常に効果的であったと考えております。

託児につきましては、3名の利用者がありました。20代が1名、30代が2名と、若者の参加者増に寄与する結果となり、託児があれば講座に参加できる方を発掘することにつながりました。低年齢児の子育てをしている世代をターゲットとする場合、効果的であると考えております。

受講後につきましては、今回の講座修了者に対して、読み聞かせ活動を行うグループである「修了生の会」の参加希望をアンケートにより聞きましたところ、35名の回答者のうち、22名が修了生の会に参加したいとの意向を示されました。今後、修了生間で横のつながりを作り、活動への参加につなげていく予定です。

続きまして、資料3をご覧ください。

資料2と重複する部分もありますが、R4とR5年度の講座開催結果を補足するものです。

まず、1ページ目ですが、令和4年度の講座開催結果でございます。令和4年度は学生をターゲットとして取り組み、若者の参加を促すため、休日の開催としたところですが、24名の受講者のうち、20代が1名という結果となりました。2ページと3ページは、各回の内容と講座の様子でございます。続きまして4ページですが、ここからは令和5年度の講座についてでございます。令和5年度は20代から40代を含む子育て世代をターゲットとして取り組み、今回の講座は、前年3回であったところを2回に変更して実施しましたところ、参加者は令和4年度に比べ、若い世代が多くなりました。

まずは、平日コースですが、24名の申込者があり、22名が受講されました。30代6名、40代8名と、他のコースに比べ特に受講者が多い結果となりました。5ページ、6ページは講座の様子です。7ページは夜間コースです。10名の申込みがあり、コースの振替えにより10名から11名の受講者ございました。20代1名、40代5名の参加がありましたが、30代の参加はございませんでした。

次に10ページでございますが、休日コースの結果です。申込者は10名でしたが、欠席者がおられ、1回目8名、2回目6名の受講となりました。年齢層は20代1名、40代、50代、60代が2～3名と均等ございました。

続きまして、13ページでこれらをまとめますと、今回の講座では、先ほどの資料2で説明いたしましたとおり、様々な改良を行い実施いたしました結果、多くの若い世代に参加していただきました。

1) 受講者数として、若者世代の参加者が増加し、40歳代の参加者が大きく増加するという成果が出たところです。特に、コース別に参加者数や年齢層に違いが見られました。

次に2) 令和5年度修了者の活動への意欲でございます。20～40代の24名についての調査結果ですが、修了生の会への入会希望者が半数の12名
フレンドマートでの読み聞かせが4名、市役所さわやか保健センター3階にあります、子育て支援施設である「ぼかぼかタウン」希望が10名おられました。横のつながりや、活動でスキルを活かしていくことへの興味があることが見て取れます。

次に3) 講座開催からわかったことでございます。

- ・日時のバリエーションを増やしたことで、より多くの人を学びにつなげることができる。
- ・学ぶ意欲のある人は、アンテナを張って学習情報を収集している。
- ・学びの場に参加する人は、自身の成長やスキルアップを望んでいる。
- ・学びの場に参加する人は、学んだことを活かして活動する意欲が高い。
- ・申込みの8割以上が電子申請であり、学びの場に参加する人の多くが、電子媒体を利用している

といったことがわかりました。

これらについては、別資料の、アンケート結果に基づいております。こちらのアンケート

結果の資料をご覧ください。

まずは、講座を受講したきっかけでございますが、日時が複数あったからという理由が最も多く、次いで読み聞かせ講座を探していた、市 HP で詳細を見てと続きます。その他の意見として、1 回の時間が短く、2 回で完了するからといった意見もあり、内容を変えることなく講座の回数を減らすことで、受講へのハードルが下がったものと考えております。あとは、絵本のプレゼント、QR コードでの申込み、託児と続きます。託児がきっかけとなったのは 3 名と人数は少ないのですが、20 代 1 名、30 代 2 名の方の参加につながりましたので、若い世代を呼び込むのに、託児は効果があったと考えております。また、同じアンケート結果を 20～40 代に絞ったところ、読み聞かせ講座を探していたが最も多い結果となり、若い世代は意欲が高いことがわかりました。

次に、講座の申込み方法ですが、年齢層問わず 8 割以上の方が QR コードを用いた電子申請で申し込みをしている結果となりました。大いに効果があることがわかりましたので、今後とも、同様の方法を採用することが必要であると感じる結果となりました。

次に、講座を何で知ったかというアンケートですが、全申込者の半数が広報くさつで情報を得られたことがわかりました。SNS 全盛の世の中に合って、広報くさつで情報を得られている方が半数という結果になったということで、改めて、市の情報については広報誌をごらんになっている方が多いということがわかりました。しかし、半数は、チラシや知人の紹介、市からのメール、市 HP となっておりますので、広報ばかりではなく、多様な情報発信が必要であると考えております。20 代～40 代に絞った結果においても、広報くさつが最も多かったのですが、今後は SNS の利用が増加していくと考えておりますので、情報伝達媒体として、活用していくことが大切であると考えております。

以上、大変長くなりましたが、今回の講座実施結果等についての説明を終わります。

【委員長】

この議題につきまして、前回会議ではチラシの改良について、または講座の開催方法について委員の皆様より多くの御意見をいただきました。改良して開催した結果、受講者が増加した結果を得られたところですが、この件につきましてぜひ委員の皆様から、お感じになられたことなど、御意見いただければと存じますがいかがでしょうか。

【奥野委員】

チラシはすごく良くなっていました。令和 4 年度は申込者数 29 人ですが、受講者は 24 人になっています。これは、定員の関係でお断りされた数字ですか？

【事務局】

29 人全員受け入れの予定でした。5 名の方は、欠席者です。

【奥野委員】

では、今年度の数字と比較対象としては適切ですね。次に、資料2の定員の欄ですが、期待する効果として満足度を向上させるとありますが、どのような効果があったかの欄に満足度について記載がないので、結果の報告として少しずれてしまっているように思います。平日午前に多くの受講者がありましたが、満足度としてどうとらえておられますか？

【事務局】

アンケート結果では、全ての方が満足、やや満足と回答しており、人数が増えたことによる満足度の低下はなかったと考えております。

【橋本委員】

令和4年度から令和5年度にかけて、40代と60代の方が増加していますが、50代の方が、前年と同水準であったことについて、事務局の考察はありますか？

【委員長】

40代、60代の受講者が多いということは口コミなどで講座の情報が得られたのではないかと考えられますが、事務局のお考えはいかがですか。

【事務局】

50代の数が伸びなかった原因については、お答えが難しいところです。3コース均等に受講者がおられる状況となったことについては、50代はライフスタイルが多様であることによるものだと推測しているところです。

【橋本委員】

こども園の園長をしている中で、40代の方が忙しいということを感じており、50代の参加が増えるのではと思っていたがそうではなく、何かお考えがあればと思い伺いました。

委員長は、昨年度の講座の座談会に御出席されたとのことですが、令和4年度の座談会では、参加者の皆様はどのようなことをおっしゃっておられましたか？

【委員長】

印象的であったのが、講座を受けて終了ではなく、活動につなげていきたいと考えている方が多かった点です。読み聞かせ技術を高めたい方ばかりが受講しているわけではなく、本日御出席の澤村委員から、受講者の方を普段の活動へとつなげていただいたところもありました。

先ほど御意見がありましたように、今回は40代と60代の方の受講生が多く、50代

の、特に男性が受講しやすくなるようなチラシの構成ではなかった印象があります。仮に50代をターゲットとした講座での効果的なチラシとなると、モノトーンが良かったりするのかもしれませんが、皆様の御意見はいかがでしょうか？

【内田委員】

これだけ受講者が増加しており、講座は成功であったと思います。50代の受講者が少なかった原因についてですが、40代は自身の子どもの子育てを通じて、60代は孫世代への読み聞かせで絵本と関わる年代であり、一方、50代は子どもが高校生や大学生などになり、絵本と関わる機会が少なくなることで、受講者が少なかったのではないかと。

アンケート結果の講座受講のきっかけとして、読み聞かせ講座を探していたという方が多くおられるが、この講座を毎年開講するのであれば、毎年同じ時期に、例えば今回と同じ時期の10月～11月に開講すると良いのではないかと。そうすることで、毎年恒例の講座となり、浸透していくと思われる。毎年開講する中で、今年は50代男性にアプローチするなどの変化をつけていくのが良いのでは。

QRコードでの申込みは、今後たくさんの方が申し込まれることを考えると、DX化の推進という観点から、事務局側にとっても、申込者側にとっても利便性の面から良いと思う。

【山元委員】

講座修了後、修了生の会への入会を希望する人が半数ほどいたとのことだが、修了生の会の目的と活動内容について説明がほしい。地域の者としては、まちづくりセンターの中で走り回っている子供を絵本に引き付けるのは難しいと考えている。

また、広報くさつでこの講座を知った方が大半であったということだが、広報くさつは、地域の住民が配っているものであり、地域住民の負担のもと成り立っている。今回、広報だけでなく、様々な媒体で広報することが大切としていただいております。今後の考えについても伺いたい。近年、町内会に入らない人が増加してきているが、町内会に入っていない人に向けた講座の周知が必要とも考えている。

【事務局】

修了生の会は、令和3・4年度の講座修了生により構成している読み聞かせの会です。通常は、会長や副会長などがおり、会則などもあるケースが一般的であります。修了生の会は会長や副会長、会則などもなく、会員同士の連絡もLineを使って行っているような、加入者の負担にならない会として運営しております。市の各種イベントや、商業施設での読み聞かせ等の情報をLineで呼びかけ、参加を募っております。

また、今回の講座では、広報くさつでこの講座を知った方が多い結果となりましたが、これは、地域の方々のおかげで周知が図られていることであると存じます。これからは若

い世代については SNS などの利用が増加することが見込まれますので、広報くさつに頼りすぎることなく、様々な手段での情報発信を行っていきたいと考えております。

なお、生涯学習課における「読書ボランティア人材養成講座」の開催と検証は、今年度で終了いたします。今後は、図書館を中心に修了生の会メンバーへの情報提供やマッチングなどを行っていく予定としており、生涯学習課としても連携してまいりたいと考えております。

【委員長】

教育長から何かございましたら。

【教育長】

社会教育活動に貢献していただける方が草津市にはまだ数多くいると感じました。市としましては、活動していただける方を増やしていくことが今後大切になっていくと認識しており、社会教育委員会議での活動が社会参加につながる一助になればと願っております。また、今後は図書館を中心に読書の推進を行ってまいります。図書館に来ていただくのを待つばかりではなく、移動図書館などの活用を通じて、外に出ていくことで読書推進、人づくりを進めていくことが大切であると考えております。

【委員長】

前回会議では、福田委員と矢野委員から学生の講座参加を促すためには、どのようにすればよいか意見をいただきました。今回の結果を受けていかがですか。

【福田委員】

若い世代からの意見とすると SNS での情報発信とチラシの配布は効果が期待できると思います。大学生には社会貢献への意欲がある人が多く、そういう情報は主に SNS で収集をしています。特に Instagram と X (旧 Twitter) から情報を得ることが多いので、こういった講座も市の SNS で情報発信すると、多くの方の目に留まると思うし、今後 SNS での情報発信を進めるとよいのではと思います。市のホームページから、Instagram や X (旧 Twitter) にリンクしてあるといいのではないかと思います。

【北川委員】

今、福田委員からお話があったように、SNS での情報収集が主流になってきています。

12月に有名な絵本作家を呼び、イベントを催した際、300枚のチラシを用意しましたが、参加者でチラシを見て申し込んだ方は少なく、口コミ等が多かったです。若い方はインターネットでの情報収集が主流ですが、60代以上はなかなか使いこなせていないスマホで情報を収集するよりも、チラシや口コミでの情報収集が主流になりますので、今後とも

チラシでの広報は必要と感じております。

また、私は修了生の会に入っていて、グループ Line でアートフェスタくさつなどのイベントのお知らせ等を市の方から送っていただいておりますが、参加されるのはいつも同じ方が多い状況です。こちらでもグループ Line で情報発信をしたいと思っておりますが、今後積極的に参加するつもりがあるのかどうかなど、グループ Line に入っているだけではわからないので、アンケートを取るなどして今後の活動にうまくつなげていくことが課題かと思っております。

【澤村委員】

私も修了生の会のグループラインに入っていますが、16人メンバーがいるうちの半数に満たない方の活動になっています。積極的に参加いただけるのか、意見を聞いていただければ良いのかなと思います。

また、チラシを小学校の図書ボランティアに配布したとのことですが、図書ボランティアをしている私のところにはチラシは回ってこなかったですね。次は、中学校の保護者等にも周知をすると良いのではと思いました。あと、私はココクルひろばで読み聞かせをしているが、活動人数が少ない状況で、そちらにも修了生の方が読み聞かせに来ていただくと助かります。渋川まちづくり協議会の部会に参加していて、まちづくりセンターの一角を絵本コーナーにする計画があります。もし来年度お話し会などができれば、修了生の方々に呼びかけをしていきたいと思っております。

今回、受講者の方に絵本一冊プレゼントという形で講座を実施していただきましたが、絵本の配布はどんな感じで行われましたか。

【事務局】

今回は、講座の講師である図書館の二井館長に、お勧めの絵本を6冊、選んでいただきました。申込者には、講座開催前に事前アンケートを郵送し、1回目の講座に持参していただきました。そのアンケート中の設問で、6種類から1冊、好きな絵本を選んでいただけるとしました。そして第2回目の修了時に、今度は受講後のアンケートを書いていただき、そのアンケートの提出いただき、選んでいただいた絵本をお渡ししました。

【委員長】

アンケートと交換で絵本をお渡しするという形をとられていたようですが、お渡しした絵本が修了生の方の今後の活動の一助となれば、良いことかと存じます。

ほかに御意見はございますか

【出呂町委員】

民生委員児童委員の立場でお話させていただくと、各地域で子育てサロンをやっている

中で、私たちも読み聞かせをすることもありますが、あえて外部からボランティアを呼んでいることもあります。子育て相談センターに子育てサロンの登録の制度があります。登録されているサロンへ子育て相談センターより様々なボランティアに依頼できることが文書で届きます。同じように読書ボランティアも子育て相談センターを通してサロンへ周知して貰えば、活動の場も増えてよいのではないのでしょうか。周知方法としてはチラシなどにより、視覚に訴えることが効果的であると思います。

【委員長】

ここまで、講座開催結果につきまして委員の皆様から御意見をいただきました。50代へのアプローチなど、今後とも工夫できる余地も多くあると感じたところですが、ここからは、議題2の3報告書の作成に向けてということで、前回会議においては大まかな骨子について説明いただいておりますが、今回の会議において、さらに委員の皆様のお意見をいただき、報告書への反映をされると伺っております。では、事務局より、資料4についての説明をお願いいたします。

【事務局】

資料4をご覧ください。

今回の会議におきまして、報告書(案)をお示しし、御議論いただきたいと考えておりましたが、本日の会議にていただきました御意見を反映させた形でお示ししたいと考えております。報告書(案)につきまして、今しばらくのお時間をいただきますようお願い申し上げます。

つきましては、ここで地域で活躍する若者の育成についてという視点で、委員の皆様にお意見をいただきたいと存じます。

1) 今期の取り組みにおいてわかったことをご紹介します。

事務局としての考えでございますが、「学びへの入り口や活動へのつながり方(出口)について工夫することで、より多くの若い世代を取り込み、地域活動につなげられる可能性がある。」と考えております。これは、今回の講座開催についての工夫を行ったことで参加者が増えたことや、修了生の会への希望者が多くあったことから、このように考えたところです。また、「今回の講座開催手法は、読書にかかわらず、多様な学びの活動者を育成することに応用できる」のではないかと考えております。

今期の取組における一定のしくみは、絵本の読み聞かせだけでなく、環境活動や、スポーツなど、様々なジャンルの学びへも活用できるものと考えました。事務局のこれらの考えについて御意見をいただき、いただきました御意見を報告書へ反映したいと考えております。

次に、2) 地域において学びから活動への仕組みを実践していくには、どんなことが必要と思うか。ということに対する事務局としての考えですが、ひとつめは「既存の活動に入る場合、活動時間や内容を細分化することにより、参加へのハードルを下げられる可能性があ

る。」と考えております。これは、今回講座を3コース用意し、それぞれのコースに応じた参加者を得られましたことから、時間的な制約という点では、活動においても同様の傾向があるのではないかと考えているところでございます。

また「学びから活動までのステップとして、フォローアップや練習機会があった方がよい。」という点については、修了生の会希望者のうち、あらかじめ日時が決まっていなばかぼかタウンの読み聞かせを希望された方が多かったことから、本格的な活動に入るには自信不足であり、練習や体験を経て徐々に活動へと移行していくというプロセスが必要なのではないかと考えております。

事務局として、このように考えてございますが、以上の点について各委員の皆様のご意見をいただきまして、報告書のまとめに活用させていただきたいと考えております。是非、幅広い御意見をいただけますようお願い申し上げます。

【委員長】

こちらでは、講座開催を通じて事務局としての考えを整理していただき、委員の皆様からの御意見を基に報告書をまとめていくという方針となっております。今期の取り組みの集大成として報告書に盛り込むべき内容など、各委員の皆様から御意見いただければと存じますがいかがでしょうか。

【矢野委員】

申し込み方法にQRコードを追加したことによって受講者増加につながったと考えています。自分たちの活動も、養成講座のチラシの裏面のような様式に手書きしてもらう形式をとっていますが、このような学生目線に立ったQRコードの方が申し込む側、主催する側にとってよい方法だと思いました。このような方法で、今後講座を知る人が増えるといいと思いました。

【副委員長】

このアンケート結果を見ていて、気づいたこととして挙げられるのが、40代の子育て世代についてです。私の職場の同僚に40代の子育てをしている人がいますが、休日は子どもの習い事やレジャーなどで、むしろ忙しいことが多いようです。このことを踏まえると、前は休日午前には講座を開講しておりますが、子育て世代は平日午前が実は都合つきやすく、今回の40代の受講者の増加につながったということであれば、この時間帯には30代～40代を呼び込むチャンスがあると考えられます。土日の開催とすると、親子で行けるようなイベント等にすることで親子連れの参加が増えるのではないかと思います。

また、修了生の会については、活動を通じたつながりだけでなく、プライベートな部分でのつながりもできるといいのではないかと感じています。

【委員長】

ありがとうございます。その上で、報告書に特に盛り込むべき点についてはいかがでしょうか。

【副委員長】

先ほどの資料3で、学びの場に参加する人はアンテナを張って、学習情報を収集しているとありました点ですが、草津市民は学ぶ意欲は高く持っていて、アンテナを張っている。それからの課題は、どうやってアンテナにひっかけるのか、ひっかかったとしても行けない理由も多い状況ですので、ターゲットの生活を想像してみると参加しやすい日時がわかるのではないかと考えられます。

【山元委員】

資料4には「多様な学び」と記載されているが、地域においては「多様な」の後に、「場所・空間」という言葉が入る。そして、「地域において学びから活動への仕組みを実践していくには」という文言だが、地域の多様な場所・空間での学びから活動への仕組みを実践するための「受け皿と環境」が必要である。地域のまちづくり協議会を横並びで考えるのではなく、本当に頑張って地域づくりをしている協議会もあるので、報告書には、地域、地域活動について盛り込み、先ほど申し上げた内容を、提言としてぜひ報告書に取り入れていただきたい。

【委員長】

地域というものをひとくくりにしない視点も大事であるし、人づくりにおいては、地域活動には多様な担い手がいて、それぞれ活動している人への敬意が必要で、ただ地域に丸投げするだけでは地域活動につながっていかない、そういう御提言であったと受け止めました。

【内田委員】

出口について、サークル助成金という制度がある。教育委員会とはまた別の、子ども未来部になるのかと思いますが、活動を始めるために有益となる情報を、グループ Lineなどで周知していくと、活動へとつながっていくのではないかと思います。

【委員長】

他部局と横の連携を構築しながら、土壌づくりを進めるということが大事という御提言であったと存じます。

武田委員から御意見はいかがでしょう。

【武田委員】

活動の受け皿の情報があると良いと思います。私も修了生の会に入っていますが、学区が玉川なので、現在読み聞かせをしているスーパーは大路で、遠いため行けていない状況です。小学校で読み聞かせをしています。昨年度に養成講座を受講した方が入ってこられました。また、グループ Line でおはなし研究会への入会の案内をしたところ、場所や活動時間などの条件が合う方に入会していただけました。自分の住んでいる地域へ貢献したい、という気持ちが強い方が多いと思いますので、学区ごとで活動の情報を提供できると良いのではと思います。

【委員長】

佐藤委員はいかがですか。

【佐藤委員】

こういう講座を、ずっと続けていくことが大事と感じています。私も修了生の会に入っており、なかなか参加できていない状況ですが、ほかに活動している人がたくさんいれば休んでいる方も安心だと思います。今後、男性にも参加していただきたいと思っています。

【委員長】

これまでの御意見等について、事務局の方でまとめていただき、次回会議にて報告書としてご提示いただくということとなっております。次第最後の、3 連絡事項、第 4 回社会教育委員会議について事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】

今年度の社会教育委員会議は、全 4 回を予定し、次回が最終回となります。本日の会議終了後、報告書（案）を委員の皆様にご覧いただき、必要に応じて修正をさせていただきます。また、各委員の皆様からの修正がございましたら、さらに反映させた報告書を、次回会議にてお示しさせていただきます。なお、次回は 2 月末頃を予定しております。

また、報告書の最後に、委員長のことばを掲載させていただきたいと考えております。委員長、よろしくお願いいたします。

次回会議は、報告書の最終確認とさせていただきます。その後、委員長、副委員長から教育長への報告書を提出させていただきたいと考えております。

以上で、本日の議題は終了いたしました。ありがとうございました。